



茅野市男女共同参画事業の表彰式と茅野市はつらつ事業所認定証交付式

2月20日、茅野市男女共同参画ロゴマークの愛称と男女共同参画をテーマにした川柳の表彰式、茅野市はつらつ事業所に認定された事業所への認定証交付式が茅野市役所で開催されました。

ロゴマークは令和4年度に決定しており、その愛称を昨年12月まで募集し、76点の応募があった中から、市内在住の浜瑞香さんの作品「ちのリンリン」に決定しました。

川柳作品は、6歳から82歳までの234人から403句の応募があり、小学生の部、中学生の部、一般の部の3部門から、計10名の句を入賞作品に選びました。

はつらつ事業所は今年度、新規認定3件、継続認定31件の合計34件の申請があり、審査会を経てすべての事業所が認定となりました。



脱炭素社会の実現に向けた取組を推進するために脱炭素社会の実現に関する連携協定締結

2月17日、東京都茅江市と脱炭素社会の実現に関する連携協定を締結しました。

協定は、茅江市と茅野市が連携し、森林保全や森林を活用した市民の交流事業や環境学習、脱炭素化推進に向けた事業を推進する内容となっています。

また、協定締結により、森林整備などを目的に創設された森林環境譲与税を活用して、茅野市の森林整備などから得られる二酸化炭素の吸収量を、茅江市の二酸化炭素排出量と相殺する「カーボン・オフセット」にも取り組んでいきます。



子どもの権利について理解を深める茅野市人権教育研修会

2月6日、茅野市役所で「茅野市人権教育研修会」が開催されました。この研修会は、人権を尊重し、明るい社会を実現するため、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図ることを目的にさまざまな人権課題を取り上げ、毎年開催しています。

今年は、「学校法人松本学園 松本短期大学 幼児保育学科 准教授 山藤宏子さん」を講師に招き、「子どもの権利条約から考える子どもとの関係」をテーマに、子どもの権利条約の成立をはじめ、条約の詳しい内容を深掘りしてお話をいただきました。



環境保全や森林整備の大切さを学ぶ永明小学校6年2部 森林・環境学習

2月16日、永明小学校6年2部の児童が、学校林等利活用促進事業（県補助金）を活用して令和2、3、4年度に整備した永明学校林（永明寺山公園内わんぱく岩手前遊歩道付近）で、森林・環境学習を行いました。

児童は学校林及び周辺のごみ拾い活動などを行った後、整備された学校林の中で、森林整備を担当した諏訪森林組合から、森林が自然災害の予防や人々の生活に対してどのように役立っているか、下草刈りや間伐などの森林整備の必要性や重要性などを聞き、環境保全や森林整備の大切さを学びました。



先端システムを防災分野で体験消防活動支援ツール実証実験＆子ども向け防災ワークショップ

2月4日、茅野市が指定されているデジタル田園健康特区における、内閣府の調査事業を受託している森ビルが、大規模災害時の消防団や自主防災組織の活動を支援する先端デジタルシステムの実証実験を中大塩地区と糸萱地区で行いました。参加者は、茅野市を再現した3Dマップ上で火災発生場所や出動した消防団の消防車の位置、要配慮者の自宅などを確認することができるシステムを体験し、課題などを探りました。

2月11日には、子どもたちの防災意識を高めることを目的に、同システムを使用した子ども向け防災ワークショップが糸萱地区で行われました。子どもたちは、上空から立体的な地形や建物を見て、学校や自宅などを探したり、レスキューゲームを体験して、楽しく先端システムに触れました。



ハケ岳西麓における新たな振興策を研究ハケ岳西麓地域共生会議第2回学習会（環境分野）

1月27日、ハケ岳西麓共同宣言に基づく施策を推進する会議「ハケ岳西麓地域共生会議」が、第2回学習会を開催しました。第1回学習会の農業分野に続き、第2回学習会では、環境分野を取り上げました。

学習会では、東京大学先端科学技術研究センター小林 光研究顧問、同センター森 章教授による環境に関する講演、諏訪地域振興局林務課による森林整備補助事業等の制度説明が行われました。その後、「ハケ岳西麓における森林の将来像について」をテーマに、小林先生、森先生、茅野市長、富士見町長、原村長を交えたパネルディスカッションが行われ、ハケ岳西麓の森林の未来について議論を深めました。

